

久万高原町都市計画マスタープラン 概要版



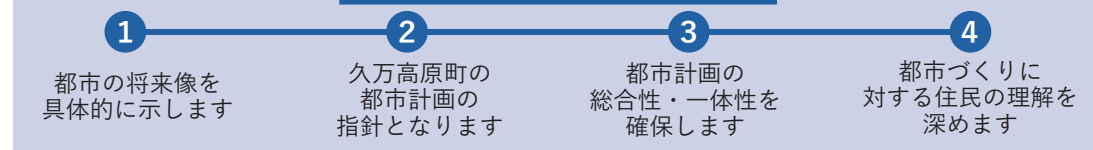
1 計画の概要

『都市計画マスタープラン』について

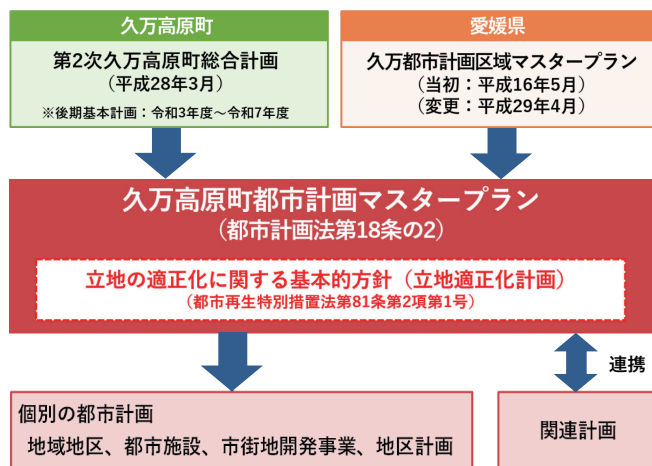
都市計画マスタープランとは、都市計画法第18条の2に定める「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のことを指し、平成4年の都市計画法の改正により創設されたものです。

都市計画マスタープランは、住民に最も近い立場にある町が、その創意工夫をもとに住民の意見を反映し、まちづくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、地区別のあるべきまちの姿を示すとともに、地域別の課題に応じた方針等について定めるものになります。

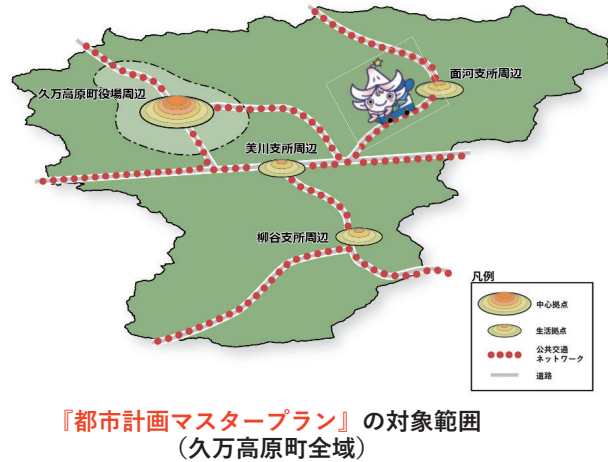
都市計画マスタープランの役割



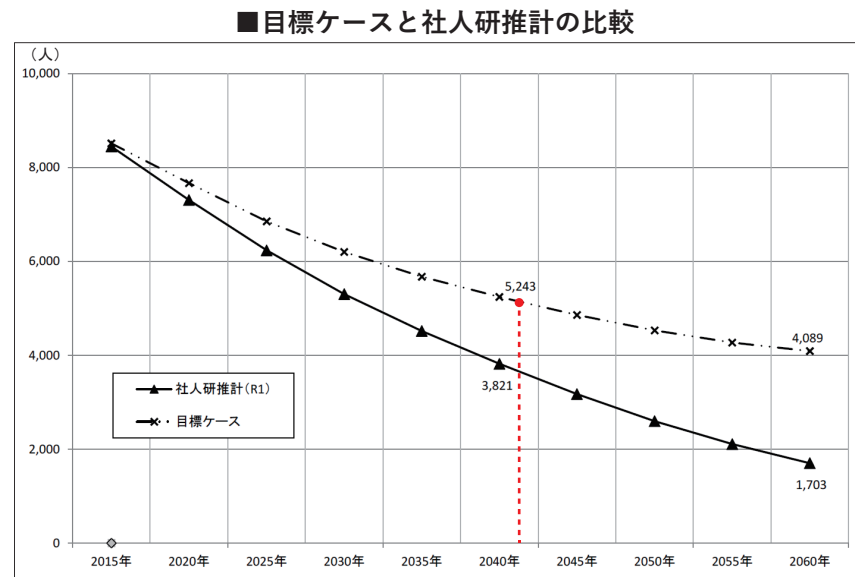
計画の位置づけ



対象範囲



目標年次と将来人口



資料：第2期久万高原町人口ビジョン

2 目指すべき都市像

都市づくりの目標

目標1 ネットワーク化された拠点の形成による歩いて暮らせるまちづくり

- 行政・介護福祉・子育て・商業・医療・教育などの都市機能を集約した拠点を形成
- 交通結節点であるバス停周辺に拠点を設定
- 拠点間ネットワークの形成

■地域運営協議会による公共交通空白地有償運送



目標2 次世代の担い手が楽しく暮らせるまちづくり

- 地域に必要な機能の充実によるまちの賑わい創出
- 誘導施策と連動した産業の継承に向けた取組の推進
- テレワーク等の「新しい働き方」に対応したまちづくりの推進

■お試し住宅 (父二峰住宅)

■お試し住宅 (面河洗草住宅)



目標3 「高原ブランド」を活かした交流を育むまちづくり

- 高原ブランド(「高原」イメージを引き立てる本町独自の魅力ある地域資源)を活かした交流
- 自然環境を活かした多様なレクリエーション活動ができる場の維持・充実
- 関係人口の増加に向けての戦略的な取組

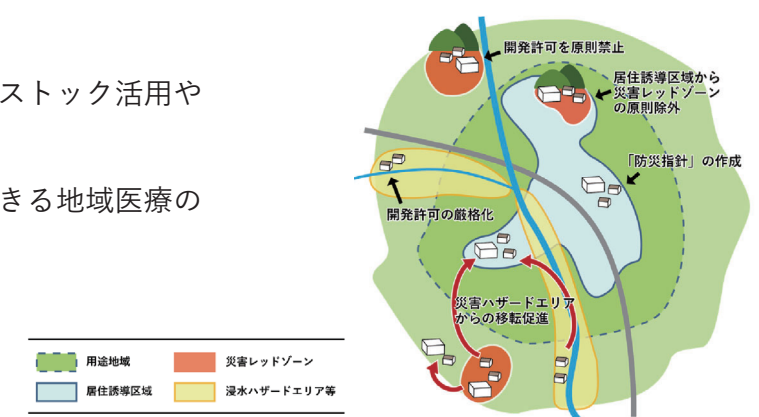
■道の駅 天空の郷さんさん



目標4 安全・安心に住み続けられるまちづくり

- ハード・ソフト施策による総合的な防災・減災対策
- 財政制約下での効率的なストック活用や長寿命化
- 多世代が安心して生活できる地域医療の維持・充実を図る

■防災・減災対策の推進イメージ





分野別の整備方針では、目指すべき都市像を実現するための主要課題に対応した整備方針を示します。

土地利用の方針

- 都市機能の充実と秩序ある土地利用の形成を図るため、市街地ゾーン、農業集落ゾーン、森林ゾーンにそれぞれ区分し、配置方針を定めます。
- 市街地ゾーンについては、行政機能や医療・福祉機能、商業・業務機能等の高次都市機能が集積した中心拠点の形成を図るなど、コンパクトで活力や魅力のある市街地形成を推進します。
- 農業集落ゾーンについては、支所周辺における生活拠点の形成により中心市街地との連携を図るとともに、良好な集落環境や自然的環境の維持保全及び良好な景観の形成に努めます。
- 広大な山林や丘陵地等の森林ゾーンについては、動植物の生息、生育地の保全等のために重要な自然的環境であるため、計画的な保全を図ります。

都市施設等の整備方針

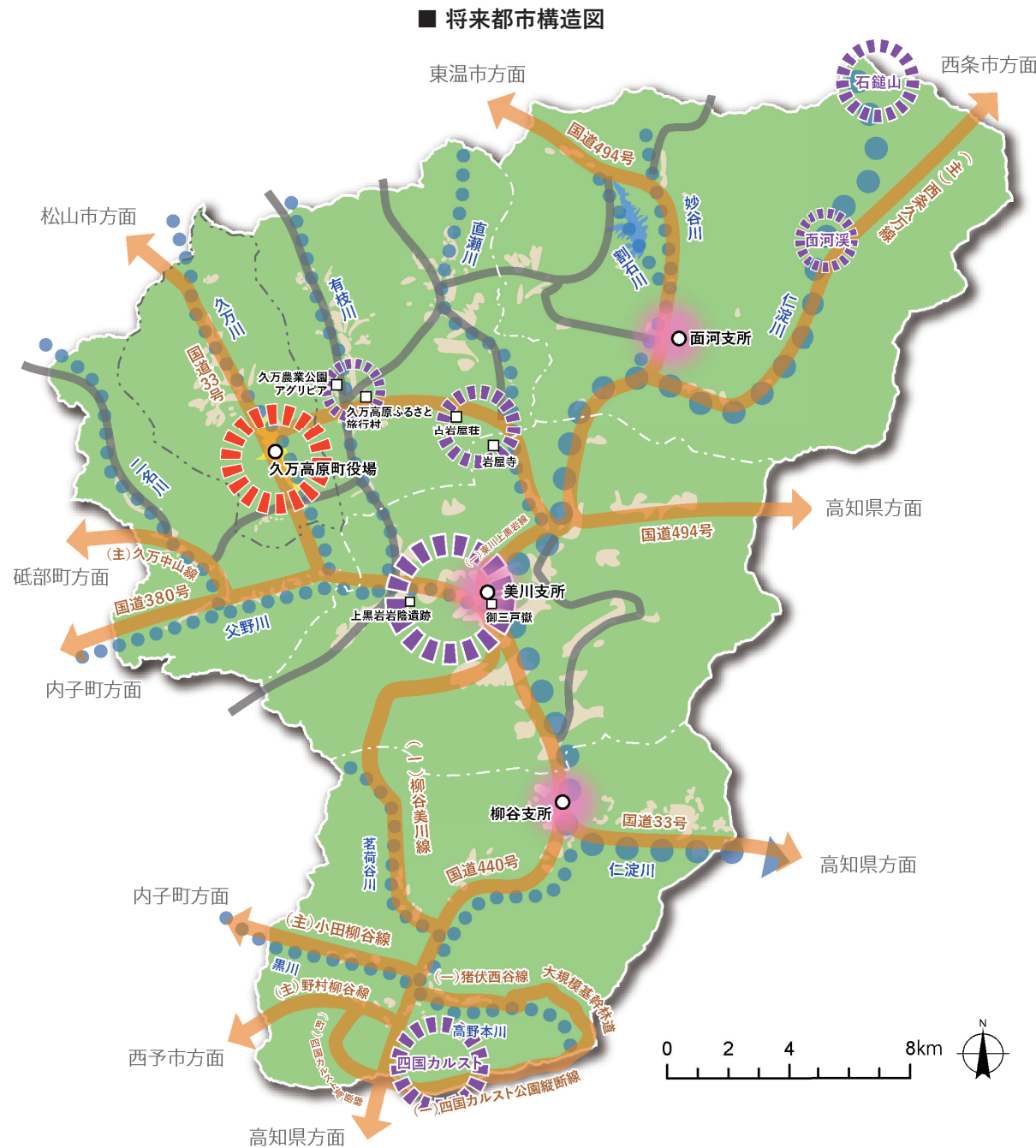
- 広域的な交流・連携及び町内における拠点間ネットワークの構築により効率的で円滑な総合交通体系の機能強化を図ります。
- 自転車・歩行者空間については、誰もが安全で快適に暮らせる生活環境を整えとともに、観光客等の来訪者に対してもわかりやすく快適に散策できる空間の形成を図ります。
- 公共交通については、維持・確保を図るとともに、交通事業者、関係団体と連携し、利用者のニーズや地域の実情に応じた新たな移動手段の導入についても検討します。

市街地・居住環境整備の方針

- 市街地においては、コンパクトな住環境の形成を基本にしながら、各種都市機能の維持・充実を図るとともに、既存ストックの有効活用等による住環境の維持改善を図ります。
- 豊かな自然に清涼な気候など、移住先としての魅力が十分にある町であることを踏まえ、既存施設や低未利用地等を活用し、移住・定住ニーズに応える環境整備を推進します。

将来都市構造

久万高原町では、中心拠点や生活拠点が利便性の高い公共交通で結ばれた『コンパクト・プラス・ネットワーク』による将来都市構造を目指します。



拠点	軸	ゾーン		
中心拠点	広域連携軸	市街地ゾーン	役場・支所	行政区
生活拠点	地域連携軸	農業集落ゾーン	主要な施設等	地域界
自然・文化交流拠点	自然環境軸	森林ゾーン	水辺地	都市計画区域界

自然的環境保全・活用の方針

- 本町は、豊かな緑とその優れた景観を有する自然環境に大変恵まれているため、自然環境が林業に代表される生産資源であること等に注目しつつ、引き続き保全・育成を図るとともに地域資源としての活用を図ります。
- 公園・緑地は人々の身近な憩いの場となり、また、避難所や延焼遮断帯として重要な役割を担っているため、町民のニーズを踏まえつつ適正な配置及び維持管理を推進するとともに、レクリエーション活動の場として機能強化を図ります。

都市防災の方針

- 大規模な災害に対応するため、住宅等の耐震化や避難・救援体制の強化を図るとともに、早期の復旧・復興が可能となるよう防災ネットワークの構築を推進し、災害に強いまちづくりを推進します。
- 防災拠点機能を備えた道の駅 天空の郷さんさんや久万公園、笛ヶ滝公園等については、防災拠点として位置づけ、災害時の広域避難場所としての機能強化を図ります。

景観形成の方針

- 本町は緑豊かな高原の中で育まれてきた生活文化や自然景観、歴史・文化施設、史跡など、ロマンあふれる景観資源を有しており、豊かな自然環境等、自然と暮らしの共生する豊かな農山村の風景があり、また、古くから栄えてきた歴史文化の面影を残す風景等、多様な景観資源が多く分布していることが特徴です。そのため、町民・事業者・行政の協働と連携による景観形成の取組を推進し、町の美しい景観を守り、育て、創造していくために、「景観計画」に基づいた景観形成を図ります。

医療・福祉関連の整備方針

- 町民が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる環境づくりのために、介護・予防・医療・生活支援・住まいが一体的に提供される「久万高原町版地域包括ケアシステム」をさらに深化・推進します。

4 地域別構想



地域別構想では、久万高原町を地域の特性に応じて区分し、地域づくりの基本的な方向性を示します。

久万地域

地域づくりの目標 賑わいと自然に囲まれた“ふつう”に暮らせるまち

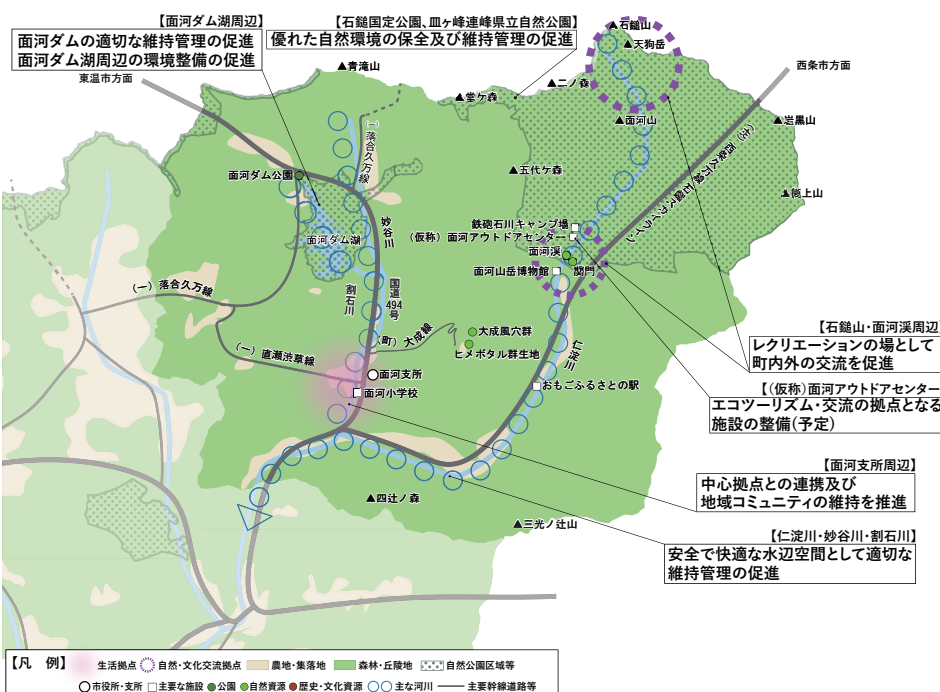
- 町の中心部として居住の誘導及び都市機能の集積を図り、利便性が高く快適な居住環境の形成を推進します。
- 伝統的な建造物を活かした歴史的なまちなみの形成及び賑わいの創出を図ります。
- 地域の豊かな森林資源を活かし、地域熱エネルギーとしての活用を図るなど、「エコエネルギータウン」としての取組を推進します。
- 町立病院の建替えを契機とし、医療、介護、福祉、保健サービスを一体的に提供できる拠点施設の整備を検討します。



面河地域

地域づくりの目標 清流とやすらぎのさと

- 仁淀川の源流域に位置し、西日本最高峰の石鎚山や国指定名勝 面河溪等の町を代表する自然資源を保全・活用し、レクリエーションとしての場の形成を図るとともに、町内外の交流を促進します。
- 面河支所周辺については、生活の利便性向上を図りつつ、既存集落の活性化やコミュニティの維持を図るため、地域の生活拠点の形成を推進します。
- 中心拠点と連携した新しい公共交通の導入を検討します。



美川地域

地域づくりの目標 自然と文化が調和するさと

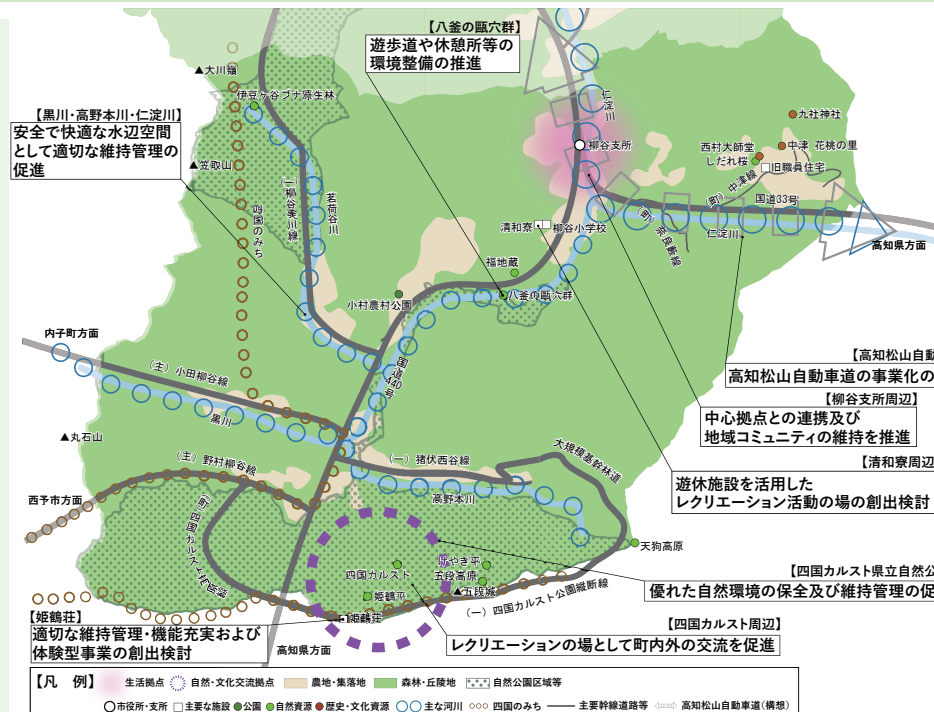
- 国指定史跡 上黒岩岩陰遺跡、県指定名勝 御三戸嶽など、歴史・文化資源、自然資源を活用し、地域の特性を活かしたまちづくりを推進します。
- 美川支所周辺については、生活の利便性向上を図りつつ、既存集落の活性化やコミュニティの維持を図るため、地域の生活拠点の形成を推進します。
- 地域住民と連携し、公共交通空白地有償運送を実施するなど、地域のニーズに応じた交通手段の維持・確保に取り組みます。



柳谷地域

地域づくりの目標 人と自然がひとつとなった活力のあるさと

- 日本三大カルストの1つである四国カルストを活用し、町内外の交流を育むとともに、その他の地域への周遊を促す仕組みを検討します。
- 柳谷支所周辺については、生活の利便性向上を図りつつ、既存集落の活性化やコミュニティの維持を図るため、地域の生活拠点の形成を推進します。
- 施設跡地等や既存ストックについては、地域のニーズに応じた活用を図ります。



5 実現化方策

目指すべき都市像を実現していくために、以下の取組等を進めていきます。

コンパクト・プラス・ネットワークの形成に向けた取組

地域公共交通計画の策定

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりを目指すためには、拠点間や拠点と居住をネットワークで結び、移動の利便性を向上させるなど、公共交通の利便性・効率性の向上を図り、持続可能な移動環境を形成する必要があります。

久万高原町においても、地域公共交通を網羅的に見直し、コンパクトシティの実現に向けたまちづくりと連携しつつ、地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの方向性を検討するため、「地域公共交通計画」の作成を推進します。

小さな拠点づくりの推進

都市計画区域外の地域は、人口減少の進行が特に顕著であり、生活利便施設等の維持が課題です。

集落生活圏において地域運営協議会が行政や事業者、関係団体等と協力・役割分担をしながら、「小さな拠点づくり」の活用を検討します。

立地適正化計画との連携

久万高原町役場周辺の町中心部等に都市機能及び居住の段階的な誘導を推進し、まちなかにおける生活利便性の向上等を図るため「久万高原町立地適正化計画」を策定しました。今後は、誘導施策等により、「目指すべき都市像」の実現に向けた都市づくりを推進します。

持続可能な都市づくりの推進

SDGs 達成に向けた都市づくり

久万高原町は、雄大な自然環境と共生しながら都市や文化を形成してきた、SDGsの土台となる自然資本に恵まれたまちです。適切な土地利用の誘導を図ることで、自然資本を保全するなど、SDGsの達成に向けた取組と連携し、持続可能な都市づくりを推進します。

■ 本計画により達成が期待される SDGs

2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する	8 働きがいも経済成長も	包括的かつ持続可能な経済成長、及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と適切な雇用（ディーセント・ワーク）を促進する	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、及びイノベーションの拡大を図る
11 住み続けられるまちづくりを	包括的で強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する		

DXの視点を持った都市づくり

交通事業者等と連携した自動運転技術の導入検討や通信環境を整備したシェアオフィス・コワーキングスペース等、DXの視点を持った都市づくりを推進します。

自然環境に配慮した都市づくり

環境と共生したまちづくりを推進する「エコエネルギータウン」として、木質バイオマスボイラーによる地域熱利用の導入検討など、持続可能なまちづくりに資する取組を推進します。

また、都市の低炭素化や都市機能の集約など、環境負荷の少ない都市づくりを図ることで「低炭素まちづくり」に向けた取組を推進します。

居心地が良く歩きたくなる都市づくり

かつて宿場町として栄えた面影が残る久万街道を対象に、関係団体と連携し、社会実験を実施するなど、歩行空間の確保や路上駐車・車両速度の改善等を図るとともに、空き店舗を活用した活性化を図ります。

■ 久万街道のイメージ図



今後の都市づくりの進め方

● 多様な主体との協働による取組

地域運営協議会との連携

地域運営協議会と連携し、町民同士で地域活動に関する協議や取組の実施について支援するとともに、地域運営協議会同士の連携を推進する調整の場づくりを行うなど、持続可能な地域運営の在り方を検討します。

地域団体との連携

地域で活動する団体に対する助成を行うなど、エリアマネジメント活動への支援を検討します。

企業・教育機関等との連携

観光・産業などの地場企業の活動を把握し、地域のまちづくりとの連携の可能性を探っていくとともに、地域の大学等の教育機関など、次世代の担い手となる若年層を中心とした多様な世代と連携し、様々な取組を推進します。

● 地区計画制度の活用

・ 地域住民が主体となった計画・ルールづくりの推進

● 計画の進行管理

・ PDCA サイクルによる進行管理と計画内容の見直し

■ PDCA サイクルによる進捗の管理

